

2024年7月14日 聖霊降臨後第八主日礼拝説教
「みことばにより導かれる交わり」(使徒言行録2章37～42節)

○使徒言行録2章37～39節について

「この約束は…遠くにいる すべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者なら だれにでも、与えられている」(39節)

*この約束：神に立ち返り、キリストを信じて洗礼を受け、罪赦された者として聖霊に与ること。(38節)

☆神から遠く離れていた〈わたしたち〉も、救い主イエスを信じる〈神の恵み〉のゆえに、救いの招きを受け入れた。

「あなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となった」(エフェソ2章13節)

※わたしたちが十字架の血で赦されるため、神は、あなたにどのような人々を備えて、ご自身の憐れみを示されたのか。

今日のみことば：使徒言行録2章42節

「a. ^{かれ}彼らは、^{しと}使徒の^{おし}教え、^{そうご}相互の^{まじ}交わり、パンを裂くこと、
^{いの}祈ることに b. ^{ねっしん}熱心であった。」

- a. みことばに聞き、神の救いを受けた人々 (41節)
 - b. ずっと強き思いを持ち続ける、屈せずに堅く信じ続ける
- ☞なぜ彼らは、救われた後も、再び世の楽しみには戻らず、みことばと祈りに生かされる交わりを保ち続けたのか。

- ①救われた者が受けるべき望みを知っていた。
- ②交わりのうちに生きて働くキリストを仰ぎ見ていた。
- ③救いの喜びを伝えたいとの思いが与えられた。

☆キリストをとおして交わりのうちに〈みわざ〉が現れた。
「こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされた」(47節)

※わたしたちの交わりには、救われた者の喜びがあり、神のみわざを心から求める祈りが起こされているだろうか。